

2021年10月1日（金） 曇り

台風16号の影響はあまりなさそうで、午後には晴れる予報。10月に入り、「宣言」も解かれ、今年のあと3ヶ月。さて、このまま「宣言」なく年を越せるか。

— 「カッコいい」 —

29日水曜のお昼前、梅田へ出て阪急で少し買い物。その帰り、9階でなんとこの日から「バンクシー展」、えっ?! 開店時間からさほど時間も経っていないし、人も少ない、おまけに入場無料、当然、観てかえりませ

バンクシーは誰か。一般には誰かわからないと言われますが、どうなのでしょう、知らないことにしているのかもしれませんが。その世界ではどうに知られているけど、知らないことにしておく。いたって主体的、戦略的。

そういうのとはちがって、一般にはわからなくても、その世界ではわかりきっていることであるものです。自分の知っている世界のことで、たまに全国紙に人や組織が紹介された時など、記事の内容に、そうか、わかっているんだあ、ということがわかったりします。

外から束の間みるだけではわからないことが、中に入ってみるとわかる。ですからマスメディアには功罪が付きまといます。持ちあげられて、人に憧れられて、人が寄ってきて、そのうち熱が冷め、人が散って、一人残る。そんな知人もいます。

いつとき妙な孤独感を味わうことになりましたが、心強い人生のパートナーに支えられ、生来の力を発揮して、自分ならではの仕事と人生を進んでいる。晩年にあっても、ラディカルに生きているのが、カッコいい。

カッコいい、カッコいい人、何をさしてカッコいいか。たぶん一つには、人に（あるいは世の中に）迎合しないこと、ではないかと思います。迎合＝自分の考えを曲げてでも、他人の気に入るように調子を合わせること。、これは、やはりカッコよくありませんね。

2021年10月5日（火） 晴れ

先週土曜から晴れ、今日も似っちゅうは夏日の予報。空の感じも夏模様。衣替えに手をつけずよかった。「宣言」解除とともに続く晴天。街へ繰り出す人多し。旅行など、行楽は今のうち？

— 内なる想いを —

2日の土曜に『プロ講師になろう塾approach2021』の受講者プレゼンテーションが終わりました。いつもながら、“とりあえずやりきった!”というみなさんの表情が印象的です。

今年で通算11期、ここまで続くと『世間は狭い』もので、知り合った人どうしが、実は別の年の受講者だったとか、そういうことが少なくありま

今年の受講者のお一人もSNSに、塾の名前は書かず、初日の様子を少し載せたら、二人から「それって、プロ講師になろう塾では？」とコメントがきたそう。どうしてわかるんだろうと不思議だったとか。

初日にはっきり、しっかり、〈釘をさす〉ので、受講者のほとんどは、“どうやらハードになりそう…”と感じる、それを書く、講師の言ったことも引用して。それでわかるのだろうと思います。

聴衆と距離のある講演会などではなく、受講者と近い塾やセミナーは、講師の役割は当然として、受講者にどんな人たちが集うかがかなり決め手です、全体の雰囲気、協働意欲の面で。

各期ごと差があり、特徴がありますが、今年の極めつけは、活動豊富な、知る人ぞ知る、詩人が受講されたこと。よくぞその気になられた。まだまだ知り得ない内なる深い想いがあったよう。

内なる深い想い。他のみなさんもそれは同様。課題をとおしてその一端を知ることになりますが、本当にほんの一片にちがひありません。

今回の受講で、その内なる想いを、光のともる方へ引き寄せていく、そんな風に自分を動かすことができた方もすくなくないと見受けました。それこそ、この塾を担当する醍醐味です。



2021年10月8日(金)寒露 雲の多い晴

今日は「寒露」、でも今週は夏日が続く。昨夜もちよっと暑かった。地震でもあるんじゃないかとチラッとと思った。今朝新聞をみて、本当にあったんだ…。東京・埼玉で震度5強。

－ 言語化、言語能力 －

印象を言語にすることはなかなか難しいものです。それをもの見事にやってみせてくれる詩人。先日それを目の当たりにしました。咄嗟の問いにも、詩的に即答、ただただ感心するばかりです。

しゃべる言語と思考する言語は別物といわれます。友だちと会話する能力の「基礎的個人間コミュニケーション能力」(BICS)、読み書きし思考する言語能力の「認知的学術言語運用能力」(CALP)。

CALPを高めれば、BICSは自然についてくるでしょうが、BICSばかり重ねても、CALPはついてこない。

いつかある人Aさんが別なある人Bさんに、「あなたは、話せる人とは思っていたけど、書ける人とは思わなかった」。Bさんの書いたものを初めて読んで、Aさんがそう言ったのです。

その時Bさんは何気ない感じで、「えっ、そう？ 話すのも、書くのも、ただ、自分の考えていることを話して、書いているだけ」。

Bさんと知り合って間もないAさんは、Bさんが読書家で、書く習慣のあることも知らなかった。読んで、考えて、書いて、また読んで。

考えたことを話す、特に、人に「教える」と、「学習定着率」は90%になるといいます。大いに考え、大いに話す。学びを深めるよい方法。

先の詩人は「語り」を活動の柱におかれています。詩作に磨きがかかるわけです。

2021年10月10日(日) 晴

今日も夏日、暑い。朝一番から強い陽射し、10月も中旬に入るのに、異様。春も秋も、ほんのわずかな季節になるのか、日本の四季。

ー いま現在を遠目にみる ー

夏日が続いても、10月。書店や文具店には来年の手帳が並び始めました。例年まっさきに買うのは、Bindexの年間予定のリーフ。蛇腹式で裏表半年分が横長で一覧できるもの。

これを買ったら、作業があります。まず二十四節気を書き入れます。もとリーフに記入されていますが、パッとみてわかるようにするのです。ついでに旧暦の1日+15日も入れます。

その他4項目書き入れることがあって、自分仕様にするまでに1時間ほどは費やし、出来上がったから、今年のものにつなげます。2021年7月から2022年6月までが一望でき、折りたためば、手帳にきれいにおさま

ちなみに来年の旧暦元日は新暦2月1日です。立春は今年は2月3日でしたが、来年は2月4日です。

ついでに、いま刻々と日が短くなっていますが、日の入りの時間は12月11日に反転して遅くなり始め、日の出時間は新年1月12日に反転して早くなり始めます。立春の頃にはやはり春が立ち始めるわけです。

こんな風に時間や時候にふれていると、おもしろいもので、いま現在を少しはなれた目でみることができます。というか、おのずとそうなるのだろうと思います。日常の中にふと〈われにかえる〉「間」。

2021年10月14日(木) 晴

ようやくひんやりしてきた。服装も秋物にかえた。来月上旬ぐらいまでは大いに動いて、収穫の秋にしたいもの。

－ 子供ながら －

先日テレビとつけたら、女性タレントの一人が子供の頃の話をしていました。普段ならすぐにチャンネルを変えるところですが、話の内容に興味をもちました。

いわく、小学低学年の時、転居先の学校へ初登校する前に、クラスでの自分の立ち位置を、いろいろ考えたい。いじめられず、目立たず、でも、それなりに尊重される、そうなるにはどうしたらいいか。

同じような話を数カ月前に仕事で知り合った方から聞いていました。小さな子供がそんなことを考えるのかとビックリしたのですが、これはそう珍しいことではないのかもしれないと思い始めています。

いま読んでいる『フォン・ノイマンの哲学-人間のフリをした悪魔』の著者によると、ノイマンがそうだったそう。事前に周到に考え、天才ぶりをあまり表に出さないようにもしていたとか。

何かしら非凡なものをもった人は、おのずとそうなるのかもしれませんが、社会生活をうまくしていくために。それはある意味、自他ともにそれなりに観察できているということでもあります、子供ながら。

観察は「ひじょうに教育材料になる」と言われますが、次には、その「教育」の仕方の問題が出てくる。如才なく振る舞うと自分に教えるか、別なことか…。

このまま考えると深みにはまりそうです。

2021年10月19日(火) 晴→曇

朝一番は晴れていたが、早々に曇ってきた。明日は雨の予報。冷たい雨になりそう。昨夜は十三夜だったが、愛でずじまい。

－ 「自分で会社をやる」 －

昨日の正午すぎ、堺東からの帰り、南海電車の車内はよく空いていました。普段電車の中ではほとんど座りませんが、ま、いいかと、長い座席の中央にすわって、直前に終えたコンサルのポイントをメモしておくこと

普通電車が次の駅でとまり、乗ってきた若い男性二人がすぐ目の前の座席にすわった。近いし車内は空いているし、話がそのままよく聞こえます。どうやら二人は同級生のよう。平日月曜のお昼に一緒とはどういうことでしょうね。

「会社、辞めんの?」。「うん、そのつもりやけど、ジブンは辞めんやろ、大きな会社やもんな」。

と二人は話し、辞めるつもりのは、「俺、どうせ自分で会社やるつもりやから」。そして、「やっぱり1000万はほしいやろ、でも、会社やるって言って、本当にやるヤツって、ほとんどいてへんけどな」。

それであなたはどうかと無言のツッコを入れたわけですが、さて、何のために会社をやるんでしょう。

昨日のニュースで仮想通貨による詐欺事件を報じていました。先週も農業製品がらみの詐欺事件が報じられましたが、どちらも容疑者たちのほとんどが20代、会社社長が20代。

一見洗練されたように見えて、実は巧妙に人を欺く、そういった輩がSNSを使って活動しやすいのが、昔と違うところ。甘い誘いに惑わされないためにも、「何のために」の軸はしっかり据えたいものですね。

2021年10月20日(水)

この日は満月、「十三夜」はのがしましたが、「女性チャレンジ応援拠点」の部屋から月の出まめない満月を窓越しに愛でました。室内の灯りを消して、3枚撮ったうちの一枚。



2021年10月22日(金) 晴⇔曇

まだ平年より低い気温。ただ来週から来月初めにかけて平年並みから高い気温になるとか。着る服を細かく調整して、体調維持を。

— 抽象度の高い… —

秋は行事の多い季節。仕事で知り合った人たちのセミナーやイベントを巡るだけでも「学びの秋」、「芸術の秋」。プラス、自分の気になったものにも参加を申込み、11月は〈学芸月間〉。

一つはデザインの講座。独立して仕事を始めてまもなく出会ったインダストリアル・デザイナーの人から、「デザインがわかる」と評していただいたことがあります。

デザインの勉強をしたわけではありませんが、その意義は何となくわかる。自分自身がいち消費者ですから、自然にそう思ったのだと思います。今のようにスマホはなかったし、自分でみて、感じて、考えるのが普通のこと。プラス、人より少し抽象概念をとらえるのがスムーズ。

スムーズなのは、たぶん若い頃の読書が糧になっているに違いありません。今回申し込んだのは「アカデミックなデザイン基礎理論」をうたったもの、さて、どれほどデザインをわかっているのか、自己査定してこよう

先月の新聞記事に「ポストコロナの雇用」の特集記事がありました。今後求められる人材に研究者が強調した一つが、「高度な抽象業務をこなせること」。

予備校講師ベテランの知人が、「最近の学生は抽象度の高い問題は本当にできないんですよ」と話していました。もともとは学生たちにもその力もあると思いますが、生活環境がそうしなくてもいいようになっている。よほど意識し、背伸びして哲学書を読むようなことをしないと。

とにかく、このところ、そのうち抽象概念をうまくとらえられないという人が8割ぐらいになるのではないかと思ったりします。電車内や街の光景、その他いろいろと見聞きすることから、そう想像します。まさか、すでにそうなっている?とも考えてみたり…。

2021年10月26日(火) 晴

今朝一番はよく澄んだ青空だった。そのうち雲が多くなったけど、今日は一日晴れの予報。それにしても昨日はよく降った。朝まだ路面がぬれていた。今日は平年並みの気温。

— 黄金比、黄金率 —

24日(日曜)の日経新聞にをみていて、「Everyday Science」というコーナーの記事、「社員・取引先〈3対2〉の黄金比」が目にとまりました。過去のデータから物理学の研究者がはじき出した〈安定〉の目安。といって、「繁栄が約束されているわけではない」ということですが。

もう20年も前、企業には何をやるにしてもそれなりに相乗的な効果をもたらす〈規模〉があるんじゃないかと考えたものです。それを知人の理系大学教授に話したら、ほおーというような表情を浮かべて、「それは、ずっとテーマとしてもっておきましょう」と勧めてくれたのでした。

残念ながらその後も頭の中においたままで、自分では何ともできなかったわけですが、ひょっとすると、今後確かな〈答〉が出てくるかもしれません。もっと早くこういう研究があってもよかったんじゃないかと思ったりはしますが。

先日読んだ『心のしくみとはたらき図鑑』の中でも、脳科学が心理学に寄与して、いろいろなことがわかってきたと書いてありました。同質的なところから創造性は生まれませんね。

ところで、「安定した人間関係を維持できる個体数」は平均150人と言われます。その20%程度の30人ぐらいと、そこそこ交流があり、さらにその20%、つまり150人の4%の6人ぐらいが密な関係となるのではないかと考えているのですが、いかがでしょう。

この4%、宇宙の物質でわかっているのは4%程度だそうです。個人的にはこの4%は黄金率のように感じています。何かについて、あてはめて考えたりするのでした。